

1. 件名：東海再処理施設の廃止措置計画に係る面談
2. 日時：令和5年4月12日（水）13時30分～15時15分
3. 場所：原子力規制庁10階会議室 ※一部出席者はTV会議にて実施
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部
審査グループ 研究炉等審査部門
来住企画調査官、有吉上席安全審査官、菅生主任安全審査官、小舞管理官補佐、
上野管理官補佐、大島原子力規制専門員
検査グループ 核燃料施設等監視部門
栗崎企画調査官、石井主任監視指導官、藤岡係員
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
安全・核セキュリティ統括本部 安全管理部 施設保安管理課 マネージャー 他1名
再処理廃止措置技術開発センター 廃止措置推進室長 他13名
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 配付資料
資料1 東海再処理施設の廃止措置の概要等

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	規制庁植野です。それでは本日の面談を始めますのでよろしくお願いします。
0:00:05	それでは、資料に基づいて説明をお願いします。はい。原子力機構ナカバヤシの方から資料1について簡単ですが、ご説明させていただきます資料1の方東海再処理施設廃止措置の概要ということで、
0:00:23	これまでの廃止措置の流れトピックス等をまとめた資料になってございます。
0:00:28	ページめくっていただきまして2-5、東芝、通し番号で15ページですね、こちらに建設からの経緯を簡単に書いてございます東海再処理施設昭和60、46年に建設に着工いたしまして、50年に
0:00:45	ホット運転を開始したと、ということです。その後、
0:00:52	本店は1140トンまで水系再処理を行いまして平成19年、
0:00:58	耐震バックチェックと観点等から、柴野でお聞きしておりましたところを、東日本大震災、新規制基準等を受けまして、最終的にはもう、
0:01:12	廃措置への移行を平成26年に表現いたしまして29年に廃措置計画の申請を行っておりますこちらの、
0:01:21	1年後の平成30年の6月に委員会いただいております。
0:01:26	この計画に従いまして、安全対策等を行うルート後程説明させていただきますがそういった活動してきました。近年では
0:01:36	認可いただきました安全対策工事を、令和2年から着工いたしまして今年度末に向けて順次工事を進めているといったところでございます。
0:01:47	次のページは、
0:01:49	こちらは鳥瞰図、航空写真でございます最終施設の位置でございます太平洋名詞タワー。
0:01:57	沿岸にありまして隣接して、原子力科学研究所等がございます。
0:02:04	その次、6ページ、56ページですがこれが最初に運転の実績ということで1977年JPDRの採取から始めまして
0:02:15	電力事業者のBWR、PWR、あと同じ原子力機構にありますふげんの燃料の再処理をしていくこととして、
0:02:25	来まして2007年採取最後の再処理の後、配布先に至ったといったところでございます。
0:02:33	7ページがそう。
0:02:35	第措置全部の燃料でございまして、
0:02:39	1措置を申請したところでは平成29年、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:46	ですが、その以前は、
0:02:51	平成 18 年の再処理運転の和気から耐震バックチェック、耐震衛生向上工事等緊急安全等を行ってありましたところを、2011 年 3 月 11 日に、
0:03:03	東日本大震災が起きました。そこで緊急安全対策等に取り組んでいましたが最終的にはこの中で廃止措置を決めたと。
0:03:13	言ったところでございます。廃止措置に至る前にすでに
0:03:17	工程内に存在してリスクが高いというところで、プルトニウム溶液ですか、もう高放射性廃液というものを持ってございましたのでこちらは
0:03:27	新規制基準への対応、適用を受ける前に、リスクを減らすための運転として特別に原子力委員会に認可いただきましてを続けていたと。
0:03:37	スプレッド MRP につきましてすべてボックスへの転換は終了いたしております。
0:03:45	別につきまして、次のページは
0:03:48	一つには、廃止といいますか発電所再処理施設のリスクを簡単に比較リスクの特徴を比較したものでございまして、
0:03:57	原子力施設では、基本的に原子炉の中に燃料があってそれを臨界にして運転しているというところから、
0:04:05	原子炉の中、運転中の主燃料、そちらに非常に高いリスクがあると、あと取り出した使用済み燃料プール等にもリスクがありますが、基本的にその
0:04:15	A 種、燃料集合体という単位でリスクが集中しているますといったところでございますのでもし廃止措置になった場合、この現使用済み燃料をすべて発電所から取り込むことができれば、
0:04:28	非常に低いリスクと、
0:04:31	しかも来ないという特徴がございます。再処理施設はもう、
0:04:35	再処理の中でその使用済み燃料を物理的に壊して、
0:04:39	溶液に溶かしてウランする後は高放射性廃液に分離するといった操作をしますからその操作の過程で使う工程内機器というのは、
0:04:49	かなり汚染されて放射線量が比較的高い状態によって、
0:04:54	なので廃止措置でこういった廃液等を取り除いたとしてもですね、セルの中にある機器等には汚染、かなりの汚染が残っていったら広範囲に広がる、広がっていると。
0:05:08	今、こういった特徴がございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:10	続きまして9ページでございまして、こちらは東海再処理施設は、廃止措置に至ったとき、
0:05:17	どういった状態にあったかといったものを示してございます。
0:05:23	まず左側の降雨、再処理のために受け入れた使用済み燃料がまだ残ってございまして、こちらの方はさあ室外搬出すると。
0:05:33	いう計画を立ててございます。
0:05:36	一方で工程内再処理運転を止めたとは言いましてもまだ
0:05:43	わずかの量ではございますが工程内の機器等にまず残渣といいますかヒールといった形で
0:05:53	回収可能核燃料物質が存在した状態にあったと言ったところ、あとはもう高放射性廃液ですねそういったものをまだガラス固化にすべてし切れていない、添相当様が残っていた。
0:06:07	ここ、個社性廃液以外の低放射性の廃液ですとか廃溶媒等も残ってございますが、右下に少し比較表のグラフで示してございますが、放射エネルギーとしましては、高放射性廃液が圧倒的に多くてですねそれに比較すると、
0:06:23	低放射性の廃液というのはほとんどグラフ上見えてこないぐらいにリスクが、
0:06:28	ということで特徴といたしましてはやはり今後社製廃液リスクが非常に高いリスクが集中しているところで、
0:06:38	そういった状況を受けまして次の10ページでございまして、
0:06:42	磯知伊井の当初の主な方針といたしまして一つ目の矢羽根でございまして、
0:06:48	ほぼ、
0:06:50	重要事項は何かといいますと、高放射性廃液に伴うリスクの早期低減、これが必要です。あとはもう運転から30年以上経過している施設も多いということで高経年化対策、
0:07:03	新規規制基準を踏まえた安全対策、こちらを実施する必要があったと。
0:07:09	いったところでは、
0:07:11	二つ目の矢羽根ですが、先ほどの説明が使用済み燃料はまだある、廃棄物の処理貯蔵は続けないといけないといったところから、あと、あとは回収可能核燃料物質がまだ工程内にも残存していると。
0:07:27	いったところから、もう最初に運転中とほぼ同様に、施設の機能を維持しておかないと、回収可能核燃料物質の取り出しですとか、
0:07:37	放射性廃液の処理処分が進まないといったところから、こういった

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:44	基本的に再処理祐天寺維持していた設備を性能維持施設として、維持を計画していると、あと
0:07:52	緊急安全対策として対応した設備、こちらも整備施設としたといったところでございます。少し飛ばしまして最後の矢羽根でこちらにありますように、
0:08:04	もう再処理施設の廃止措置というのは世界でもあまりいい例がない、日本では唯一初めての王子ものと、
0:08:13	いったところと先ほど申し上げましたようにかなり特別な急に運転を止めた状態にあったと言ったところから初回の申請時にすべての廃止措置の工程を詳細に定めることは困難です。
0:08:26	あったといったことから、今後詳細を段階的に定めて廃止措置計画を変更する都度行って、審査いただくといったところで進めてきているといったところでございます。
0:08:39	次の 11 ページではもうリスクの方、最重要課題といたしております、リスクの早期低減といった観点でございますが、
0:08:52	四つめの矢羽根のところをぜひ書いてありますが四つほど、
0:09:01	①から④までテーマがございます重要課題としてテーマがございます①、加茂康放射性廃液貯蔵場の安全確保、これ高放射性廃液の貯蔵のリスクを下げる。
0:09:13	もう一つはその査定廃液そのものを早くガラスに安定化させるということで、ガラス固化技術開発施設においてガラス固化を含める。
0:09:22	三つ目こちらの低放射性廃液、こちらの方を処理するためには新たな施設として低放射性廃液処理技術開発施設 L W T F
0:09:31	でセメント固化を進める必要があるんでこちらの設備整備が必要であると。
0:09:36	四つ目、ですが高放射性固体廃棄として春販管をこれを、
0:09:45	再処理施設の建設当時に建てられた初期の貯蔵庫でございますので現在の視点からすると、少し貯蔵のあり方が課題があったといったところからその貯蔵状態を改善するという、この四つの
0:10:00	重要課題のうち特に①と②ですね、こちらをが非常に重要であると言ったところから
0:10:08	一番注力して対策を行っている。
0:10:12	当初ガラス固化を進めるのが優先であると。
0:10:17	そういったところございましたが、なかなか溶融余裕炉を、等のトラブルや周辺設備の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:25	保証等によって少しガラス固化が進まない状況にあったことから、安全対策を最優先として進めると。
0:10:35	いったところ、一方で後程詳細に説明させていただきますが、ガラス固化もさらに進めるために、3号熔融炉の更新を決断しているといったところでございます。
0:10:50	次の12ページは廃止措置、現在、見極めているところの範囲での概略でございます。大体70年かかるであろうという見通しを示してございます。初めは先ほど申し上げましたようにガラス固化の処理を行うのが最優先でございます。
0:11:09	その次主要施設といたしましていわゆる再処理主要設備本体、そういったところ無視をしなくなって回収可能核燃料物質の取り出しが終わった後にこれらの廃止措置を順次進めていく。
0:11:22	ガラス固化を完了したガラス固化施設を廃止していく。
0:11:26	その間を除染解体等で低レベルの廃液岩手続けると、固体廃棄物は出続けるということで低レベルの廃棄物処理は継続して、かなりの期間、
0:11:38	運転を続けないといけ
0:11:41	んでそれがすべて終わった後に、保全施設の管理区域の解消です。
0:11:48	次の13ページ。
0:11:50	こちらは現在の再処理センター機構内での再処理施設の廃止措置の実施体制、
0:11:56	といたしまして、
0:11:58	いろいろ
0:12:01	安全対策の議論の際にいろいろ機構として経営課題がありまして、より廃止措置を進める安全対策を優先、優先してきちんと進めると。
0:12:13	いった観点から最初に廃止措置技術開発センターの中に廃止措置推進室、
0:12:19	を設けてプロジェクト管理を一括して行うという体制に令和2年5月よりして、
0:12:27	でございます。
0:12:29	次のページ14ページ以降が、具体的に安全対策、どういったことをしているかという概要でございます。
0:12:38	13ページでございます。これが安全対策の全体方針でございます。まず東海再処理施設と言っても多数の施設でございますが、先ほど申し上げましたように放射性物質のリスクといたしましては、放射性廃液にかなりリスクが集中しているといったことから、これらを

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:57	廃液を貯蔵しているH o w施設と、
0:13:01	このガラス固化施設、
0:13:05	ガラスこれらの廃液をガラス固化して安定化処理するというF、こちらが最重要であるといったことで、安全対策を最優先で講じると。
0:13:14	いたしております。
0:13:17	具体的には高放射性廃液自身を、かなり冷却が進んでいる。
0:13:23	ことからその特徴を踏まえますと事故の中で崩壊熱の除去失敗して沸騰、蒸発乾固するといった事象が最も防止すべきものである。
0:13:37	いう観点から崩壊熱の除去設備を中心に、
0:13:42	新規制基準法に準じた対策を講じることにいたしておりますが、
0:13:49	一方で
0:13:51	周辺設備につきましては、廃止措置の現状を踏まえますとなかなか
0:13:57	エース新規制基準に適合させるためには、非常に時間がかかる
0:14:04	或いは施設ごと作り直さないといけないというかなり大規模な状態になりますので、こういったのを、はT V F以外の施設から崩壊熱除去を、
0:14:15	を支援しているようなユーティリティ施設ですとか電源設備、そういったものにつきましては代わりに、可搬型設備ですね事故対処設備を設けて、
0:14:26	A I I、崩壊熱除去機能、閉じ込め機能を回復させるという話にしております。
0:14:34	こういった方針に従いまして令和5年度末までにここで挙げました安全対策を行うと。
0:14:41	そういったことを考えてございました。
0:14:44	次のページがそれらの認可の取り組みということで時系列で示してございますが、まず、重要なのは、地震津波だと、太平洋沿岸にあるといったところから地震津波の対策を採用するというので、
0:14:59	は、T V Fに対するそれらの対策をまず一番優先して令和2年5月から1月にかけて申請いたしております。
0:15:08	その後その他の自然災害内部事象等についても安全対策を、
0:15:13	順次、変更認可申請を行いまして最終的には9月、令和3年5月30日で一通りはT V F安全対策、及び、
0:15:25	ここ、T V F議会その他の施設の安全対策についても認可を終えた、申請を終えたという、いうことでございます。
0:15:34	次の57ページを、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:37	優先度ということでまず施設といたしまして、表にありますように、T V F がまず
0:15:44	一番優先であると。
0:15:46	それ以外の施設というふうにグレードを分けてございます。また守るべき起因事象につきましてもやはり立地からして地震津波が最優先と。その次に、地震津波等で外部支援が受けられない場合の事故対象、こういったところが重要ですと。
0:16:05	ところで次優先度を高めていると。
0:16:08	それ以外竜巻火山等の外部事象に対しても、新規制基準に準じた対策を講じていくと。
0:16:15	いったところでグレードを分けて順次対策を進めてきたといったところでございます。
0:16:22	続きますと18、
0:16:24	1 ページが地震対策でございます。
0:16:30	地震対策につきましては基準地震、いわゆる基準地震動
0:16:35	をとというものを、に相当するものとして廃止措置では廃止措置、
0:16:42	計画用設計地震動といったものを
0:16:46	認可委託申請申請認可いただきまして、その地震動に対してH o w T V F 少なくともこの建屋、あと建屋内部の崩壊熱除去閉じ込め機能に関わる設備、
0:17:00	については、新規制基準と相当の安全性を確保するという観点で評価対策を行ってきております。
0:17:09	具体的にはですねH o w 建屋につきましては、
0:17:13	周辺地盤の改良工事を行うことによって建屋自身の耐震性裕度を向上させる。また廃止配管トレンチ自身、地下にある配管トレンチの耐震
0:17:25	衛生向上を行っているといった工事を行ってございます。
0:17:30	また本T V F の廃棄を行っている主排気遠山第2 附属排気塔というのがございますが、こちらにつきましては耐震補強を行ってございます。
0:17:45	T V F 以外で電力やユーティリティの供給している施設ですね、外部の施設、こちらにつきましては
0:17:55	先ほど申し上げましたように、この設計地震動に耐え得るようにするのは困難な場合、よりがたい事由があることから、こちらに対しましては、地震津波で機能が喪失したとしても、
0:18:08	3 型設備等を配備することによって事故対象によってカバーすると。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:14	いった方針にしてC A Q、瞬時こういった可搬型設備の充実を図っている。
0:18:22	次の方、
0:18:24	19 ページが津波対策でございます。
0:18:27	新規制基準つきにおいては再処理施設ドライサイトを発電所と同じようにドライサイト認められております。
0:18:34	しかしながら、廃措置にある現状等を再処理施設のます。
0:18:40	施設全体の状況からして地震対策と同様に、まずはT V F、この建屋の中に水を言えないと、いったことが重要であると。
0:18:52	いったところでこういったのは、T V Fに津波が来たとしても内部に水を入れないような対策を行っているといったところでございます。
0:19:02	具体的には津波の遡上解析によってはT B Lの建屋に津波が押し寄せたとしても、この波力に耐えうるに開口部に浸水防止扉を設ける。
0:19:18	あとは津波とともにやってくる漂流物ですね、こちらにつきましてもサイトの
0:19:26	管部等を行いまして最も厳しい。
0:19:30	漂流物というものを洗い出しましてその漂流物が建屋に当たらないように、建屋前面に津波防護柵を設置するといったような工事を行ってございます。
0:19:41	続きまして、18 ページは津波対策は、失礼、竜巻対策でございます。
0:19:48	竜巻につきましても、
0:19:51	発電炉等で行っている形に、非常基準竜巻、こちらはF - 1 1 1 夫婦フジタスケールF - 1 1 1、秒速して、風速 92 メーター / s e c。
0:20:06	津波竜巻を設定いたしまして設計上は最大 100 メートルと s e c の風速を想定いたしました。また設計飛来物につきましても同様に津波の方費、
0:20:20	時と同様に管を行いまして、設計飛来物という設定してございます。こちら発電所応答と同じような 135 キロ分を、
0:20:32	鋼材左、下に記載してありますがこういったものが飛んできて、建屋にあっても建屋内はT B Lの建屋内部に
0:20:43	乾燥しないと、いう対策を行ってございます具体的には右側にありますように、物品搬入、もともと外壁にあった扉や窓といったところに、
0:20:55	防護盤や防護扉と、
0:20:58	十分な厚さの鉄のオール扉と動けることによって、飛来物から守るといった対策現在工事をしてございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:10	次の 21 ページ、課題具体火災対策ということで、こちらも新規制基準で求められている内容でございます、
0:21:20	近隣の産業施設での爆発火災、森林火災、あと周辺航空機落下時の火災、そういったものから、TVF が影響を受けないという、そういったことを確認してございまして、
0:21:35	森林火災に対しましてはシミュレーションの結果に基づきまして、右側に示してあるような防火耐、こちらはもう設けることにしてございまして、
0:21:45	これによりはTVF に森林火災が延焼してこない対策を講じることにしてございます。
0:21:55	25 ページ以降が、実際の工事の代表示してございます。まず、22 ページは、耐震設計でして、半分の周辺地盤。
0:22:05	改良工事、左側に進捗状況を示してございます。
0:22:11	また右側に主排気棟第 2 附属排気棟の耐震補強工事ということで、特に紙廃棄等は投信全長をコンクリートで
0:22:23	熊木こけるといいますか分厚くするような工事を行っておりますすでに工事自体は完了してございますが工事の写真是このように、
0:22:34	家になっているといったところでございます。
0:22:37	次の 23 ページが津波対策の工事状況ということで、
0:22:41	まず形で見えてわかるものが、津波漂流物防護柵ですね、下にありますようにはうとTVF、四角で囲ってございまして、この周りに津波の
0:22:54	遡上方向に
0:22:57	直交するような形で、津波ホーム柵を設置しているといったものでございます。また
0:23:04	津波の後、津波側の海に戻る時の引き波ですね、その際にも漂流物をひきつけてくるということで、海側と反対側の東側にも引き波用の防護柵を発行してございます。こちらの引き波用の防護柵につきましては、
0:23:23	すでに工事を完了して、
0:23:29	こういった工事につきましては 24 ページから 25 ページ示しますように、工事のスケジュールを引いてそれぞれ順調に工事を進めていただいたところでございます。
0:23:43	47 ページ 28 ページこちらは事故対処設備、2、事故対象に関わる資料でして、
0:23:51	27 ページは、事故対処に使う資源といたしまして燃料電源車や
0:24:00	ポンプですね、エンジンつきポンプを動かすための燃料、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:04	ここ工法とあとはその冷却水はT V F も放射性廃液を冷却するための冷却水の確保といったところで、構内既設の
0:24:17	貯水設備ですとか燃料貯蔵設備は、さらに川又の貯水設備といたしまして、
0:24:24	コンテナタンク上、タンクを持ったコンテナ、こちらを新たに2、津波の来ない位置に設置して設けている。あとはもう、
0:24:34	燃料の貯油槽につきましても現在事故対象設備、
0:24:39	を設置するために、
0:24:41	耐震補強工事を行っております。
0:24:45	図上でいうと右側にP C D F 駐車場がございますが、そちらの中に、地下に、
0:24:51	中層を設けるような工事を行っております。
0:24:55	28 ページがスゴウ。
0:24:57	状況を示してございまして、左側が現在ですね、P C D F 駐車場の地盤補強工事の状況でございまして、
0:25:07	かなり新野大臣があったんですが、かなりの部分を一旦掘削してさらにその上にまた医療どうり、さらに盛り上げるといったような工事を現在進めていると。
0:25:19	はい一方でこういった事故対処設備の完成を待たずに現在持っている設備だけでも十分に対処できるようにということで右側に示しますような事故対処訓練を行っていると言ったところでございます。
0:25:38	続きまして 29 ページ以降がリスク低減の取り組み状況ということで、いわゆる廃棄物の安定化イコール内容でございます。
0:25:50	30 ページ、31 ページこちらはガラス固化の取り組みの状況でございます。こちらにつきまして後で補足資料という形で別途詳しく説明させていただきますので、
0:26:01	ネットで省かせていただきまして、32 ページ、工程洗浄でございます。工程洗浄はいわゆるその再処理本体の中に残っている回収可能核燃料物質を取り出すと。
0:26:12	減った分を作業でございまして下の図にございますように、
0:26:18	整理、
0:26:20	改修しないとイケないものというもので左図の左側にあります使用済み燃料センター、こちらは
0:26:27	せん断しているエリア。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:31	使用済み燃料をせん断していたエリアにある散らばっていた燃料封筒を集めまして集めたものでございます。
0:26:42	あとは右側にありますように、黄色のところにありますように浦。
0:26:47	両駅もまだダッ賞を有するない、要するに転換する前の領域がいくつか残っていると。さらにその下にある緑にありますように、
0:26:58	若干洗浄後の低濃度のプルトニウム溶液というのも工程内に残っている状態であります。
0:27:05	それにつきましては
0:27:08	工程洗浄現在取り組んでおりましたまずオレンジ色の左側の使用済み燃料泉南分、こちらを採用開始した後高放射性廃液貯槽を、
0:27:20	に取り出すといったものにつきましては昨年、すでに終了して、取り出しが完了してございます。現在はその緑色のプルトニウム溶液の取り出しを行っているところでございまして、ここ、
0:27:35	この取出しん完了、黄色の大浦の溶液の合唱を、
0:27:41	を行う。
0:27:42	出しをしてお答えするところを、
0:27:45	を計画してございます。
0:27:47	次の 33 ページは、
0:27:49	低放射性廃液 2 の処理といったところです。
0:27:53	東海再処理施設で発生いたしました低放射性廃液につきましては、いわゆる高放射性廃液以外のはい。放射性廃液になるんですけれどもそちらにつきまして蒸発処理等を行って減容
0:28:09	した後、現在 L W S F という施設で貯蔵しているところでございます。
0:28:16	こちらにつきましてはもともとはそのアスファルト、
0:28:19	固化施設というものがございましたアスファルト固化体にしてございましたが、こちら、平成 9 年に爆発事故を生じまして施設としての運転を停止、それ以降は低放射性廃液は、
0:28:33	一旦この L W T F が動くまで昼食しているといった段階ですので、低放射性廃液を安定化するためには L W T F の運転が非常に急務である。
0:28:44	小寺部 T A F の方法当初計画を改良いたしまして一部工程につきましては、
0:28:51	セメント固化技術を導入するといったところで現在設計の変更を進めているところでございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:01	続きまして 34 ページ、こちらはもう、高放射性廃液小交付査定固体廃棄物貯蔵場の管理状態でございます。こちらにつきましては近年、報道等でもご存知の通り、
0:29:15	使用済み燃料を切って溶解して残った被覆管ですね、こちらはもうファイルパンという右側に、
0:29:24	図、民家の図にありますような円筒形の金属容器、
0:29:29	に変換した後、運転、再処理施設の運転当初は今度、
0:29:36	プール、プールといいますか水が張ったセルの中に、上から落としていくような形で貯蔵していく。
0:29:43	現在の視点で言えばこういったちょっと乱雑に見えるような形では、うまく管理できないのではないかともうちょっと管理を向上すべきだといったところでその取り出しに関する現在取り組みをしているといったところでございます。
0:29:59	その取り組みの状況といたします 35 ページでありますように、
0:30:03	こちらは
0:30:04	日比須藤で
0:30:06	実績のある、水中 R O V、ロボットですねそういったものを使って、
0:30:12	ハル缶を一つ一つつり上げて、新たに建設する直後をそちらの方に収め直すといったところを計画して、順次試験等を進めていく。
0:30:24	ところでございます。
0:30:28	本編の説明は以上でございます。つって、補足 1 たん一旦決めましょう設定はい。はい。ありがとうございます。
0:30:38	国庫までのところで、規制庁があったら、何か確認等あればお願いします。
0:31:00	ウワーッです
0:31:03	通しの 9 ページのところで、右下のところに
0:31:09	ハウス社の比較っていうことで示されてて、
0:31:17	棒グラフ出てるんですけど、
0:31:19	この分離精製工場のところで、今、工程洗浄をやってるかと思うんですけど、
0:31:28	それが今終わっ
0:31:30	た。
0:31:31	時のイメージというのは、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:34	ほぼほぼなく今この見えてるグラフがなくなるようなイメージになってことですかね。
0:31:42	工程洗浄が終わった段階、
0:31:49	そうですね工程洗浄が原子炉機構のナカノですと、工程洗浄そのものでは、今のこの分離精製工場の希釈廃液等っていうところで、書かれておりますけど、
0:32:01	おそらくここで支配的なのはその放射性廃液の、はい。
0:32:08	分離精製工場の高放射性廃液貯槽等にフィール等として若干残ってるものがありますので、そういったところを合わせて衛藤合う施設に送ってということで集約していく必要があります。工程洗浄は核燃料物質の扱いですのでまたちょっとそれとは別な話になってきますので、
0:32:27	工程洗浄とあわせて、一部送る部分もありますがちょっとそこは並行して徐々に減ってくというイメージなのかなというふうには思っています。
0:32:37	終わるとするのは、工程洗浄が終わったタイミングで終わるみたいなイメージなんですか。
0:32:44	まだ除染等、引き続きその後の取り組みもありますので、そこも合わせて減ってくようなイメージなのかなというふうには思っております。
0:32:55	はい、わかりました。ありがとうございます。
0:33:01	クルスミでございます。すいませんちょっと私初めてなものでいろいろちょっと教えていただきたいことがあって基本的なことも含めて恐縮なんですけれども、
0:33:10	まずご説明いただきましてどうもありがとうございました。
0:33:14	全体像が大分わかってきたんですけれども、
0:33:20	衛藤、今野ウエノさんから質問があった工程洗浄の話なんですけれどもですね、工程洗浄は今もう進んでるんですよ。
0:33:29	なんでしたっけ、現在実施中でございます。
0:33:35	なるほど。工程洗浄することによってなかなか取れないところっていうのが見えてくるんじゃないかと思うんですけれども、それによって除染どういうふうにするのっていうプランが決まっていくのかなとも理解してるんですけれども。
0:33:49	何か工程洗浄でやっぱり取れないところってのはどんなところが取れないとかってのは何か傾向ってのは見えてきてるんでしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:01	ちゃんと、ちょっと現場お願い原子炉機構の仲野ですまずちょっと私の方からお答えさせていただきます工程洗浄そのものは、まだ除染の段階に入っていないので、抱えている
0:34:17	いわゆる核燃料物質、ウランプルトニウム、そういったものを、廃液を単に硝酸を中心にして送るというだけ、硝酸は多少注ぎますが送るという取り組みですので、まだ、
0:34:31	除染ですとかその効果を確認するという段階には入れてないというのが実情です。
0:34:38	そうか、じゃ、浦野甲斐。要は、回収、回収するって目的なんですよね。
0:34:43	はいその通りです。ごめんなさい。わかりました。ですので、これが今年度いっぱいかけて、工程洗浄を行いましてその次のステップとして系統助成に入ってきます。そうですよね。ご指摘のようにその系統除染も、どういうやり方をするとどの程度除染効果があるのかというのは、
0:35:03	赤塚抜けてない部分がありますので、やはりちょっと最初にそういったデータを取得するようなどころから徐々に段階的に安全性をチェックしながらのやり方を申請させていただいて認可いただきながら、段階的に徐々に進めていくような形になるのかなと思っております。
0:35:19	その第1弾につきましては今年度末1をめぐりに申請の方を進めるべく準備を進めているという状況でございます。ありがとうございます。この系統除染をどういうふうにしていくかっていう話っていうのは、何かその傾向がどうなどうなってるのかっていうのは、
0:35:38	どのような元データをもとに何かそういう傾向を掴んでいくんでしょうかね。
0:35:44	基本的には、抱えている、その液位の分析の結果ですとかあとはセルの中の線量の測定ですとか、
0:35:56	はい。
0:35:57	あとは、Dたですかね
0:36:02	核燃料物質ですとか放射性物質のこれまでの運転実績そういったものから推定する部分、そういったものの組み合わせで、現状の汚染の分布の状況、それから、
0:36:14	ある条件で洗浄を行った場合の効果等を確認しながら、徐々に進めていく。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:22	というところが行っております。なるほど。塩野りできたりですねそうすると、放射線量で決まっていくようなイメージっていうふうにも考えていけばいいですかね。
0:36:34	最終的には解体をするというのと、それ一解体したものを廃棄物としてというところですので、その除染の目的というのはまず解体できるようにする。それを直接人が入れられるようにすれば理想的にもじゃなければ、
0:36:49	遠隔の機器を導入してと。そういったところの手法を決めていくためにも除染をしっかりしていくというところが必要になってくるんですね。ですから作業ですとかその辺の放射性物質の濃度そういったところを目安にする取り止めていくということになるかと思っております。
0:37:09	はい、ありがとうございます。
0:37:11	続いてちょっとすいません私ばかりで、通しページの13ページ目のところに、廃止措置の実施体制の整備っていうのが書かれてると思うんですけども、
0:37:21	ここでご説明くださったのが、要は再処理施設のその廃止措置をしている事例が海外でないっていうような、なかなかないというお話をいただいたと思うんですけども、
0:37:32	これは海外での例ってのは全くないってことなんでしょうか。
0:37:37	いえ、海外ではございます。
0:37:41	国内では初めてになるかと思えます。
0:37:44	なるほど。海外での例はちなみに、どこの国のどこは施設っていうのは、今、お手元に情報ございますか。
0:37:52	原子力機構ナカバヤシですこちらも詳しいな情報までなくて、公開情報ベースですと東海再処理にいたプラントとしてはフランスのUT通400、今唯一800は別のプラントとしてなってますがその前に建てられた。
0:38:10	再処理施設、
0:38:13	少量の再処理施設としては、廃止措置、椅子になったのはおそらく世界そこだけだと思います。それ以外は、運用プラントですから、もう数世代前の、
0:38:26	いわゆるプルトニウム生産処理系の再処理施設ということであればアメリカですとか、イギリスそういったところにもある。
0:38:36	事例はある。うん。
0:38:38	なるほど。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:44	ありがとうございます。
0:38:47	その配送中央、高レベル廃液の話もそうなんですけども廃止措置を進めていくための、内外英知の結集っていうすごい大きなお話がされてると思うんですけども、
0:39:01	このあれですかね茶色い専門家国内専門家って方々は、主にどういう方々がどういうご専門性をお持ちの方が集まられてらっしゃるんですか。
0:39:14	原子力機構の中野です。まだちょっとこの体制というの、道半ばといえますか、これからというところでございますので、具体的にまだこの体制が組み切れてるという状況ではありませんが、直接そういった、
0:39:30	廃止措置にかかわられている経験を持った方ですとか、特に我々が先ほどもご質問ありましたように除染どこまでどうやるのが望ましいのかあとはそのためには、どういう試薬を使ってどういう方法をやったらどのぐらい取れて、
0:39:48	どのぐらい取れなかった。そういったところの知見というのは非常に有益だと思っておりますので、そういったところはぜひ、くそそういったその、もうすでに経験しているところ、
0:39:59	もう基本的にはメーカーさんであったりとかそういったいろんなところに経験積んだ方っていうのはおりますのでそういったところを
0:40:11	吸い上げていくといいますか情報を仕入れていくということが重要なのかなというふうには認識しています。その他、例えばフランスでいえば大浦の車ですとかそういったところと、
0:40:23	協力関係を結ぶべく交渉を進めていくことであったりとか、あとは
0:40:34	IAEAですとかそういった国際的な機関の中でもそういった廃止に向けた技術会合とか
0:40:40	藤横江氏に行われるところありますので、そこにも我々も定期的にといいいますかメンバーに加わる形で情報交換をできるような形で、
0:40:50	先方になるべく先行の情報を吸い上げるような取り組みを行っているという状況でございます。
0:40:58	具体的な体制はまだこれからという状況であるもののそういう情報共有体制に向けての整備を進みつつあるってこういう理解でしょうかね。
0:41:11	はいそれに向けて取り組みを進めている、藤東條ということということですよね。はい、わかりました。ありがとうございます。
0:41:21	本コース。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:29	すいません、あと最後もう1個だけなんですけれども、34ページのところで、羽深の話をさせていただいてるかと思うんですけれども、
0:41:41	これあれですよ。江藤。神野法子、神野管理方法を向上していくという事で取り出されるために、
0:41:51	35ページにあるようなロボットを導入して、それ取り出し作業していくと、て新しくその貯蔵施設を建設していくというようなお話を伺ったように聞こえて聞いて理解してるんですけども、あれですかね貯蔵施設の建設プランってのはどんなような感じで動いてるんですか。
0:42:09	はい。山岸福永でございます。衛藤。まずは取り出しの技術を今実証しているという段階でございます。おそらく今通し35ページに記載してございますような水中ROVで取り出すというのが、
0:42:25	かなり現実的で有力なものとして検証しておりますので、あと数年で、めどがつきます。付けられますとそうするとようやくその
0:42:37	これを取り出すための
0:42:39	建屋といいますか既存のはの施設の運営上というか周りにそういったものを建設した上で、取り出しに移っていくという状況になってきますそれとあわせて、
0:42:50	それを取り出して別途保管するような施設の建設も検討が進んでいくと。ですので現状は今、まだそのもとになります取出しの技術の検証というところに注力しているという状況でございます。なるほど。
0:43:07	はい、わかりました。今ご説明いただいた中での私からのご質問は以上であります。すいませんいろいろ教えていただきまして、わかりました理解が進みました。
0:43:21	すいません。有吉です。はい。34ページに関連しているところ、最初の計画は、
0:43:29	建物の上からかぶせるように僕建物作るような、確か説明があったと思うんですけどまだ、
0:43:38	ですか。
0:43:40	はい。
0:43:43	上に何らかのものを作るところは変わっておりません。ただ、池線はここにロボットアームのかなり大掛かりな設備を使って取り出すような、設計を当初進めてあったこともありましたので、それに比べればかなりコンパクトなものなものになるのかなと思っておりますが、
0:44:00	建屋として取り出しのための施設を作るというところは変わらないかと思えます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:08	はい。そういう方針は変わらないんだけど、実際のその中身ってのはこれから多分コンパクトになる方向で見直されてるってことですね。そう考えて、はい。
0:44:24	規制庁のオオシマです。この安全対策工事と進捗状況について確認させていただきたいんですけども、24 ページから 20。
0:44:34	持ってるまでですかね。
0:44:37	一応
0:44:39	令和 4 年度末で終了するものについては、概ね予定通りの処理をされているということです。それでも 5 年度末で終了するものについても、現時点で特段大きな工程遅れ、
0:44:51	その見込みとかもなく、問題なく終了できるような、そういった認識でよろしいですか。原子力機構ナカノです。衛藤。
0:45:03	カーン実績の線が赤の点線の現時点に届いてないものが幾つか書かせていただいている部分があるかと思います。あと、
0:45:13	何かそれは、例えば 20 年で 25 ページ、スライド番号 23 番のところの、
0:45:20	溢水対策関係それからそういったところですね、若干そういうところがありますけど、これはやはり資材の調達ですとかそういったところでリスクが生じているところがあって、
0:45:36	現時点で遅れですとか今年度末に収まるか収まらないかっていうところでリスクが生じているという現状がございます。ちょっとその回復に向けて努めているというところでございます。
0:45:50	特に大きいのが連携系制御系の部品ですとか、そういったところがなかなか思ったように入ってこないというような状況もございまして、ちょっとその辺に対処に注力しているという状況がございます。
0:46:06	あとそれから、ユーティリティ関係については、例えば可搬型事故対処設備っていうのを、
0:46:15	設けるといいますけれども、その例えば 26 ページが、この事業対象の工事計画の進捗なのかなと思うんですが、この保管場所についてはもう、
0:46:28	整備が終わっているところを見ておるんですけども、その中のものについては日ごろめどに進められる予定なのか、ちょっとお聞きしたいなと思うんですが、
0:46:39	衛藤、すみませんものがほとんどそろっている状況ですが保管場所の整備がまだ河内は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:47	今年度いっぱい続く予定でございます。衛藤。
0:46:52	西出。
0:46:54	28.1、当時の状況の写真でございます。
0:47:01	左側ですかねえと、これが一番メイン。
0:47:06	事故対処設備の置き場になるところになりますが、まだ女性と、高台に物を置いてそこからシャローでアクセスするようなルートの設置も含めての工事。
0:47:20	してる状況です。これは比較的そうですね3ヶ月ぐらい前の写真ですのでまだまだこの造成工事が引き続き続いているという状況です。現状はもう少し他の多くの方ですとか、別の場所に
0:47:32	並べて配備してるという状況ですが、まず最終的に置き場は、もう少し工事が続いているんです。
0:47:40	ものはもうほぼそろって生食です。
0:47:44	通し番号26ページで、審査対象の一番下の欄に、保管場所の整備ってことで、計画は令和4年度末で終わっていて実績もそれに応じて終了しているような書き方になっているんですけども、
0:48:01	ここで私の認識としては、すべて整備が終わったのかなっていう認識であったんですが、
0:48:08	はい。すいません。八木塾ナカノでちょっと説明が不足して申し訳ありませんこのページですねその一つ上の、ちょっとまだグレーの網掛けになってる白抜の部分、これは先ほど写真ご覧、写真でご覧いただいた
0:48:21	メインになる置き場の工事の状況でございますこれはR3年度いっぱいまだ地盤改良工事というような書き方しておりますがそれが続くような状況です。
0:48:31	一方で今ご指摘いただいた一番下のものというのは分散配置という観点で、さらにもうちょっと上がったところに、
0:48:39	江藤船戸地区というエリアがございましてその駐車場に置き場を整備したりですとかあとは、さらにそこからのアクセスルートの途上にその物を配備したり、そういったものについてはもう、
0:48:51	すでに工事は令和4年度で工事が終わってるという状況でございます。はい、わかりました。
0:49:02	それについては地盤改良工事が終わらないと、
0:49:05	はい。
0:49:06	はい。
0:49:07	承知いたしました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:09	値段改良とあとそこの位置に
0:49:13	バブラー非常のときに使う燃料として使う油のタンクとかそういったものを設置しますのでそういうところの工事がまだもう少し続くような状況でございます。
0:49:29	今の配備場所、その 27 ページの絵で、
0:49:34	どこがおっていうところ。
0:49:39	はい、編集局だからですね等、
0:49:41	27 ページの図で言いますと工事が終わっているのが、
0:49:49	②番ですかね、②番のところに、かなり大きなスペースをとって、ここに配備するような
0:49:57	工事してます。
0:50:00	ことはちょっとこの図に、
0:50:05	からもしきれてないと思うんですがそこから再処理施設に向かうアクセスの経路上に数ヶ所、コンクリートの基礎を作って、そこに
0:50:16	水を送るための資機材ホースであったとそういったものを分割して配備してますのでその節、その配置はすでに終わっているというところですよ。
0:50:26	これでいうところ①番のところが P C D F 駐車場と書いてあるところが一番中心になる事故対処設備の置き場になりますが、ここはまだ今年度いっぱい工事が続いているという状況になります。
0:50:43	じゃ 13 ページあったアリヨシです。13 ページでさっきあの体制の話があったけど、これは駄目でしたねあの経験者。
0:50:51	もう、
0:50:52	いかに確保して残すかっていったところが、坂倉のポイント。
0:50:57	するんですけど、その辺なんか、
0:51:01	ちょっと説明された方がいいですか。
0:51:03	はい。
0:51:05	今まさに工程洗浄等やっておりますがこれも工場のプラント動かしますのでやはり経験者の知見というのが重要になってきます。で、衛藤これから除染、解体になるともうあまり運転の経験とは関係なくなってる気もするんですがまだ除染等ではプロセスを動かすような場面も出てくるかと思しますので、
0:51:25	そこに向けて、やはりもう過去に運転経験したものを冒頭で年表等説明させていただいて、もう最後に打ってやってからかなりの年数経っておりますので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:36	経験者をつないでいくというのが非常に大きな課題になっております。その取り組みの一環としてまさに今回のその工程洗浄をやる中で、経験のあるベテランはしっかり確保。それは、いわゆる定年後の嘱託とかそういういったものも含めて経験者を確保しております。
0:51:53	そういった方とは家庭の技術者中堅のものを組み合わせる形で、経験を積む経験を引き継ぐというような取り組みをさせていただいてるという状況です。そういったところで
0:52:06	何とかつないでいくということを考えてございます。その他若手をしっかり廃止措置 70 年の計画ですので、採用も継続的にというところでそういったところも力を入れて取り組んでると。人材確保が非常に大きな課題ということで、
0:52:21	力を入れて取り組ませていただいているという状況でございます。以上です。
0:52:34	規制庁のスゴウなんですけれども、よろしいですか。お願いします。
0:52:40	33 ページの L W T F でちょっと私も基本的なところがわかってないんで教えて欲しいんですけど。
0:52:49	当初、蒸発観光するプロセスを、金今回とかセメント後、観光、スポーツを、二階堂予定立って、
0:53:01	あとまた硝酸こん分解するプロセスを、今後実証するっていう話なんですけど、その当初のやり方だから、変えた理由みたいのを教えてもらってよろしいですか。
0:53:17	まず今蒸発乾固から始まったから勘違いのところを直してあげて、説明したらどうですか。
0:53:23	はい。当協会の方でちょっと経緯含めて説明してもらった方がいいと思うんですが、ちゃんと切ってますか。
0:53:34	はい。小委員会の佐藤史典ですじゃ、ご説明させていただきます。
0:53:39	まずですね L W T F 当初、ホウ酸ナトリウムを効果錠剤としてこれ、ろうべこ過程を当初読んでたんですけどもそのプロセスが今の L W T F の中に入っています。で、
0:53:52	オオブの方なんですけれども、これ中間固化体として、最終的に捨てるときにはもう一度再再度加工しようと思って中間固化体として入れたものです。
0:54:02	ただしですね。
0:54:03	この N D F を建設していたところからですねホウ酸というのほう素が環境規制に引っかかるということが明らかになりまして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:13	ほう素はちょっと気使えないよねっていうことになりましてで、その当時原燃さんの方でもセメント工場の方、現在でしたり各発電所さんの方でも、
0:54:25	定例の廃棄物廃液についてはセメント固化をするということを進めていたので、やっぱりセメント固化にした方がいいのではないかとということで、セメント固化を導入しようというふうにプロセスを変え、変えていったというのがまず一つ、1点あります。
0:54:40	もう1点なんですけれども硝酸金分解設備なんですけれども、東海再処理は旧レックス法を使うので、必ず硝酸系の廃液が出てきます。で、
0:54:51	硝酸系の廃棄を当初はセメント固化入れるときはセメント固化にそのまま失敗入れてセメント固化体にそのまま入れて続けようと思ったんですけれども、
0:55:00	ここの図の37年33ページの中で、戦中処分相当のセメント固化体をしてる時にですね、浅いところに生まれた時にこの硝酸今部会でAをしないとですね、
0:55:13	は、セメント固化体の中に入っている小残コン、硝酸イオンのことなんですけどそれがやっぱり環境規制に引っかかると、ということで、ホウ酸もそうですし硝酸、
0:55:25	イオンもそうなんですけども、環境規制に引っかかるということで、硝酸高を分解した上で、炭酸塩の廃棄するんですけども、その形でセメント固化をして、浅いところに埋めようと、環境規制に対応したっていうところが、
0:55:40	このプロセス二つ、入れたというところの経緯になります。以上です。
0:55:46	規制庁のスゴウですありがとうございます。
0:55:49	それで、
0:55:52	今多分、そうすると低レベル放射性、
0:55:57	A T M廃棄物は、貯めてるしかないのかなと思ってるんですけど、今後廃止措置進めていく上では、
0:56:10	低レベル放射性廃棄物の貯蔵とかそういう観点からは、余裕はあるっていうふうに考えてよろしいんですかね。
0:56:27	安里さん回答してください。
0:56:31	はい。商品化の佐藤です。回答させていただきます。基本的にはセメント固化体のこれというところでセメント固化体の置き換え置き場所ですけれども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:42	当初ホウ酸ナトリウムをし、使って固化しようと思っていたものところも、当然コアの加古片井の置き場所ありますので、そのところに置くということで当面は問題がないよというふうに動向では考えています。以上です。
0:56:58	はい、ありがとうございました。すいません原子力機構、仲野です。江藤佐藤さんの先行の誘導の話を多分質問されてたと思うので、その観点で答えてもらえますか。
0:57:11	低レベルの濃縮廃液の貯蔵誘導の。
0:57:14	はい。失礼いたしました。低レベルの濃縮関係の貯蔵裕度ですけども、33 ページの方にですね、放射性濃縮廃液の
0:57:27	証拠参考文化プロセスを実証してセメント固化設備を導入すると令和 11 年っていうふうに書いてありますけれども、
0:57:34	この時点までで東海最初の中で廃液が一体になるということは
0:57:39	ないというふうには現時点では確認してございます。
0:57:43	以上です。
0:57:46	規制庁のスゴウですありがとうございます。今後のプロセ数見るとガラス固化をまずやって、
0:57:55	あとは工程洗浄をやった分はからこれもガラス固化するんで、あんまりその低レベルは意義が出てくるような廃止措置ってのはそんなにない。
0:58:10	いうふうに考えていいんですね。
0:58:19	ちょっとすいません処理課の佐藤です。
0:58:22	工程洗浄をやるまでであれば、工程洗浄で出てくる早い方しかすべてガラス固化体の方に送ると思いますのでそれほど低レベルの廃液を出てくるということは講座、今 1000、
0:58:34	系統除染をやるだになるとおそらく、調整した時の益が出てくるので、それについてはしっかり考えなきゃいけないということはあります。です。
0:58:45	なるべく早めに L W T F を動かして、液体の廃棄物については、処理をでき、して、正直言うと踏ん張らないようにしておかなきゃいけないよねというのが
0:58:57	ここの意識です。
0:59:00	規制庁のスゴウです。わかりました。一応先ほどお話あったように、系統除染とかも踏まえても、一応その令和 11 年度の運転開始であれば、
0:59:13	持つっていうことは確認されてる津田だと思うんですけど、少しそれがもうちょっと後ろ倒しとかになってくると、余裕はそんななくなってく

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	るっていうふうにちょっと理解をしました。はい。ありがとうございます。
0:59:29	すいません答えじゃないかもしれないけど、このL W T Fのモックアップっていうのは、どう、どう、どう、どこまで遅れますっていう。
0:59:40	今実際どうなんですか。これがリソースの問題というふうな回答されましたけど、
0:59:46	はい。検証可能です。先日の会合で、ご説明まさにさせていただいた通りの状況でございます。リソースの確保もちろん重要な重要なプロジェクトだと思っておりますので、注力しておりますので、
1:00:02	この間ご説明していただいた状況からあまり変わってなくて6年度中に試験を開始できるように地所プラント規模試験の設備を作り上げていくというところで、
1:00:13	それに向かって動いているという状況でございます。それでは6年度中の見通しっていう面がありますかね。あと今年度中にわかるってことですかね。だから来年度予算だったら今年度予算の取れたかどうかで大体わかるってことですか。
1:00:29	そうですか。今、それに向けて、各所と調整してるというところまでしかちょっとお答えにくい状況であります。はい。思います。
1:00:49	他よろしいでしょうか。それでは引き続き、ガーツの状況。
1:00:56	をお願いします。
1:00:59	はい。検証モリカワです。手法補足資料ということで36ページ以降です、T V Fの状況についてということで資料整理しております。
1:01:08	過去に菅新海後藤でいろいろ説明した資料をちょっと抜粋して構成しております。それと説明の方がこのところあるかと思えますけど一応簡単に
1:01:20	全体概要ということで説明させていただきます。まず37ページ目施設概要ということで、
1:01:25	T V Fですねこちら、
1:01:28	平成4年ですね、に竣工し、傷害事件障害検査ですね、これが平成7年12月に合格して、それ以降の運転の方、
1:01:39	継続しているという状況です。
1:01:41	志村設備としましては、ガラス溶融炉、あとは、遠隔補修用の設備ですね、要は塊ベーター。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:51	あとは開発硬化体保管するセルってということでこちら右下に固化セルの概要ということでコンクリートを追われた固化セル、ここに遠隔で操作しますので量は固まりβ B S M2 基と、
1:02:08	ガスクレーン、古閑セルクレーン 2 基、
1:02:11	これがセル内の遠隔操作等を使用機器となります。この中にラック等といろいろあると。
1:02:21	できた固化体は、保管する搬送セルに移動して、保管セルの保管ピットに収納するというような
1:02:29	規程概要となっております。
1:02:31	次は 38 ページ目。
1:02:34	こちらの施設の概要ということで公社債貯蔵場からは後ですねガラス固化の運転の度に受け入れまして、
1:02:44	受入槽で受け入れて濃縮、廃棄の濃度を調整してわかる水路に供給していくということでできたガラス固化体につきましては、
1:02:54	固化セル内で蓋ですねフタートを溶接してそれがありましたら除染。
1:03:01	汚染検査、閉じ込め確認計算をして、保管セルにして保管すると。
1:03:07	岡さんにつきましては、槽類換気系ということでそれぞれスクラパートで除去しながら、フィルターを越して台座会議等から廃止するというような状況になってます。
1:03:19	左で左上の写真ありますようにその業務型マニピュレーターとか余裕度、
1:03:24	ガラス固化体出して、こういうちょうど真ん中が動くスペースで両サイドにこのような機器が配置されている状況でございます。
1:03:32	39 ページ目ガラスの概要ということで、こちらの方ガラス原料ですね、これからファイバーカートリッジというものに、廃液を染み込ませながらドアに投入していくということで、
1:03:44	左上さしあげますようにカートリッジですねこれ溶融炉の表面ですね、こんな形でカートリッジが積み上がっていくと。
1:03:51	だんだん下の方からガラスがこうでと、溶けていくような形になってます。
1:03:56	そっちいろいろに間接加熱装置というのが、まず最初間接加熱装置で間接的にガラスと
1:04:05	溶かしていくと、また見ていくと、ある程度ガラスが溶けた段階で、直接通電ってことで主電極、あと補助電極の電気を通してガラスを溶かし

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	て下のノズルからガラスを抜き出すという、そういうような工程となっています。
1:04:22	40 ページ目、そちらがガラスのこれまでの運転経緯ということで平成 6 年、障害検査の合格平成 7 年前から運転を行い開始しまして 1 号炉で 130 本、
1:04:39	ここで 1 号炉から 2 号炉に交換して 2 号炉で 224、
1:04:43	今 3 号炉の更新という形で、現在までに 357 号まで製造を進めているという状況でございます。
1:04:53	41 ページ目、こちらが今回の運転と昨年の令和 4 年 7 月から運転を開始する前に、
1:05:03	令和 4 年令和 5 年 6 ねここら辺の運転の計画ですね、こちらをキャンペーン前に定めてます。
1:05:13	で、今回につきましては、ホールドポイントを何ヶ所か設けながら進めていくという形で運転が終わりましたら、評価、3 号炉の更新判断ということをして、
1:05:25	その結果を踏まえてその次の令和 5 年 05 分で運転を継続して、このような形で、
1:05:31	今回の運転前に今週までの計画を定めたと。
1:05:35	今回につきましてはこの評価 3 号の更新判断という踏まえて今現状の取り組みを進めているということでございます。
1:05:44	42 ページ目、こちらが今回の運転の計画と実績ということで、
1:05:51	計画値が青の線ですね、これに対して実績が、基本的に当初ずっと実績ほぼ計画通り進んでいたと。
1:06:02	ということでスカパーの 25 目のところで、運転を終了したということでございます。回答ホールドポイント 1 と 10 本目のところまでは、特段問題なく進んでたんですけど、25 番目で、運転終了したという状況でございます。
1:06:17	これにつきまして 43 ページ目。
1:06:19	運転中ではその白金族のを管理しようと。こういうのを設けて、管理指標に達したら運転終了するというようなあれで進めております。
1:06:31	ここの中では%の青の線黄色の大鹿鷓木近く黄色の四角、あと、緑の三角とバー化の 0 っていうことで、
1:06:41	ラヨーン線が結構これ管理者に到達したのがこれまでにゴールで 4 回っていう、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:48	最初のキャンペーン、2号炉で初めてすっからは青の四角である110本ぐらいまで運転継続してこの段階で完了到達後、
1:06:57	この後1回ガラスを直炉外のガラスを除去して、次の回が2回目ということでき、黄色の四角ですよ。
1:07:06	これで大体60本ぐらいまで運転して、ここでも管理者を出したので、除去して、除去作業をして、
1:07:13	その後緑、赤っていう形で、大体20本とか25本、ぐらいで会長に達してしまっているという状況でございます。
1:07:27	44ページ目、白金族の堆積状況ということで、この修繕先ほど示した主電極間抵抗をこれ最終的に管理者に達するところを確認してるんですけど、それ以前で炉内の状況を把握するポイントとして、
1:07:45	緑の線、これが補助電極間抵抗のそこの電極間抵抗。
1:07:51	その下の青の線ですねこれが炉底低温運転に移行する時間ということで、
1:07:57	弊段階的にこのような傾向が見えてくる。まず最初の①の緑の線、これ右上の方に書いてますが、
1:08:08	補助電極食うの抵抗ですね、そこにはっきりと固まってきますのはこの抵抗がだんだん下がってくると。
1:08:15	ある程度たまりきったら、もうその抵抗側の変わらない状況になります。その次にありますのが②ということで、
1:08:23	炉底にある程度白金族がたまってきますのをここに通電して、炉底がなかなか冷えにくくなってくるということで、当初白金が溜まってなければ炉底、
1:08:35	まっすぐ減るんですけど炉底の白金がたまってきますとこの切り方が悪くなってくるっていうその次の傾向として②という形で、この時間が延びてくると。
1:08:46	その後最後③ということで白金族の方が、主電極の方まで堆積してくると。
1:08:54	この主電極間抵抗が急に下がると、こういうような傾向があるということでこのというような方八金属の長期的な推移を確認しながら運転をしているという状況でございます。
1:09:08	45ページ目。
1:09:10	いろいろ運転ということで、先ほど説明しておりますが、白金族元素というのが、排気中に含まれておまして、
1:09:20	これはバランスに溶け込まずに析出して、これがガラスよりも、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:26	劇中が重いので、沈降してしまうと、こうであればガラス中にどんどん下に落ちてくるので通常の運転であろうと後者の方ですね、左側に書いてますちょっとピンク色になってる部分、そこの部分の温度を下げて、
1:09:43	外から粘性が高くなって白金族の沈降を抑制すると。
1:09:49	というような運転ですね。で、ただこのまま流下するときはその下の流下ノズルからガラスを抜き出さなくちゃいけませんので、その際は、炉の底を温めて、ガラスを抜き出すというような操作で、
1:10:02	右側の炉底のイメージ、温度イメージとありますが、
1:10:07	流下するときが、一番高い状況ですね、流下終了して、そのあと、炉底を冷やすと、また、流下する前にどのそこを加熱して、それでまた流下するというような形で、
1:10:22	これが大体、2日に1本のペースで行っていくような状況となっております。
1:10:28	先ほど言いました炉底低温運転の移行時間っていうのが、この流下終了してから、大体その820度ぐらいで少し平行になってる部分ですね、ここまでの時間。
1:10:39	大河原さん、はっきりわかってないとこれすぐに下がってくるんですけど、はっきり固まってくるところがなかなか下がらずに、820まで温度が下がらきらない場合が出てくると。
1:10:51	このようなほう状況を確認しながら白金族の堆積状況を管理してる状況でございます。
1:10:58	46ページ目、いろいろ論点ということで、2日に1本という形で、先ほど説明いたしましたが、基本的によらないは、ガラスを2本保有した状況で、
1:11:12	1本追加して、その1本分抜き出すというような形をしております。ですので流下終了後、101ということでちょうど自然局の上辺りまでガラスのレベルが下がってくると。
1:11:25	ここから40時間ぐらいかけて形状を供給していて、ガラスのレベルがだんだん高くなってくると。
1:11:35	ある一定のところまで達したところで、流下してその1本抜き出すと、そんな状況です。加熱経路につきましても、通常の主電極の通電と補助電極の通電。
1:11:47	て炉の底をある程度温度を冷やししながら運転すると。で、流下前につきましては主電極等をその底部の電極間も通電。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:55	補助電極間の加熱を少し電力あげるといことで、全体の温度を上げて、抜き出すというような操作を行っております。
1:12:05	47 ページ目、今回の運転後の炉内観察といことで、このガラスを全部抜き出した後に、左側がありますように、炉の中にカメラを入れて、
1:12:18	いろんな状況を確認しております。
1:12:21	写真の方をちょっとわかりづらんですが、右側の方ですね、上部から見た写真で、赤の分がちょうど真ん中側の炉の底四角になってますのでちょうど四角水の炉底の方にガラスがたまっているのと、
1:12:37	その傾斜面ですね傾斜してる上のところの赤の部分にもガラスが堆積していると、その下の傾斜面が出てる断面図見ていただくと、わかりますけどその主電極のオキモトの辺りに、
1:12:51	白金族は多くたまってるような状況。
1:12:55	ここの保守使う主電極と南ホシ電極をつなぐような形で白金族が溜まっていたのでここに通電パスが出て、抵抗が下がってしまったという状況でございます。
1:13:07	これらの状況を踏まえて 48 ページ目、先ほどの 3 号炉の運転の評価と、3 号炉更新の判断という形、これ運転前に定めたものを踏まえて、
1:13:20	基本的には、3 号の更新判断といことで曲がる効果算定を進める観点から、
1:13:27	3 号の更新軸に運転中は検討を行ったと。
1:13:32	閉今後の運転については、今回のキャンペーンで直近は 20 本とか 25 分ぐらいしか運転できなかったので、今後も 25 本、
1:13:41	継続するとい。検討を行って、その 3 号炉の更新のを考慮すべき事項といことで、
1:13:50	コーセル内のスペース確保ですね、とか、高経年化対策、こんなのを並行して行ふ必要があるといことで 3 号炉の更新に向けた検討を進めているところでございます。
1:14:07	49 ページ目がそれらのメリットデメリットですね、2 号炉を使った場合と 3 号炉への更新する場合といことで、色目立冬なりデメリットを評価して、最終的には 2 号炉運転を行わずに、
1:14:22	令和 9 年の浅水赤石目指すとい方針で今後進めていくことにしております。
1:14:29	50 ページ目がそのスケジュールですね、一応廃棄物解体でありますとか、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:35	整備 2、あとはこの 3 号炉据えつけ、こういうのを踏まえた上で、06 年度末から値下げ解消を目指すということで今そういうスケジュールに従って今運転を進めて現場作業を進めている状況でございます。
1:14:49	現場の状況ですけども 51 ページ目に書いておりますが、解体の方は、今現状、スケジュールに載っておりますが除去装置の解体を進めているところが高経年化対策につきましては、梁型についてのドリーの交換作業、こちらの方を今進めているところです。
1:15:06	3 号炉につきましては、カレットの試験ですねこちら 3 月 29 日までで全量を抜き出すとレイアウトを終了して、今ちょっと炉内観察を実施しているところです。今現状においては、炉内構造物レンガとか電極について特にね、書けとか割れとか、
1:15:24	見られてない状況でガラスが綺麗に売り出されている状況を確認しております。
1:15:31	52 ページ目が原因調査ですね、こちらの方に説明しておりますので省きますけど、前回の運転後の残留ガラス除去で、もう少しその残った状況で運転を開始しまったものが原因ではないという形で考えております。
1:15:47	それを踏まえて 53 ページ目に原因の推定と対策の立案ということで、
1:15:52	現状の方対策については、両括弧 2 両括弧 3 ですね、今回のその白金族の管理手法検知方法の改善、あとは除去の方法、手段の改善、こういうのを今後図っていくということで今対応を進めているところです。
1:16:07	54 ページ目が 3 号炉の概要ですねもう 2 号炉資格水の 45° 航海を今回円錐 45 度 5 回にしていくという形で今 3 号炉の方を試験を進めているところでございます。
1:16:21	55 ページが更新フローということで現状あと残りはですね 3 号炉据えつけと、2 号炉取り外すっていう形のところまで今進んでいる状況でございます。
1:16:32	あと 5657 ページ目これ 3 号炉の据付固化セル内ですね、このような形で遠隔でクレーンとか硫酸がたまりベータを使いながら、2 号炉を撤去してから 3 号炉すりつけなくちゃいけないってことで今現状固化セル内の
1:16:47	こういう移動のスペースの確保と、これにある使用します機器ですね、こちらの方の整備を進めているという状況でございます。
1:16:54	概要の方は以上となります。
1:16:57	ありがとうございました。規制庁側から確認等あればお願いします。
1:17:15	すいません有井ですけど、50 ページの工程表で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:20	今、令和5年の第1四半期ですよね。で、今現在は固化セル内の廃棄物解体とあって、
1:17:31	2号炉号取っP L U Gのが、平成では6年の第1四半期この白い棒の一番最初と書いていいんですか。
1:17:40	はい。戸部主務そうですねは6年度の最初の第1四半期のところで、2号炉撤去という形で今考えております。はい。江崎河野という撤去は来年度、第1四半期ですね。はい。結局そうですねその前にいろいろ配管と書いてますけどその取り外しは計画では今年度の途中から開始しますので。はい。
1:18:02	あと念のための確認なんですけど、
1:18:06	41ページの、
1:18:11	青い逆三角形があって、
1:18:15	令和4年度の12月に評価物3号炉への更新判断ってあるでしょ。はい。と同じく、令和5年度に同じ文庫があるんですけど、
1:18:25	こここれ意味合いはどういう、堺市がいい。
1:18:28	改めてここで何か判断するんですか。
1:18:31	減少小森笠田のこれは前回の運転前だったので、運転して評価して、3号炉の更新が不要であればまた次運転して評価してっていうことになったらもうちょっとこの計画はないです。当初はそういう形で運転ごとに、
1:18:48	運転終わった後に3号炉更新するかどうか判断していくと、それはそういう形ではいいわかりました。これ日付8月18日だから、いや議論が進む前の工程ですねその前に、はい、わかりました。はい。
1:19:07	50ページに戻りますけど、
1:19:11	固化セル内廃棄物解体で3交代で調べて工程上厳しい印象を持ってるんですけど、
1:19:19	どうなんでしょうこうやって遅れる可能性ってありますか。
1:19:24	所長森川です。現状、廃棄物の解体については、大体その計画通りうまく今進んでる状況かなと思ってます。
1:19:35	城さん交代の方も順調に進んでおります。あとこれ以外に廃棄物が増えたりすると、当然ちょっとその分期間が延びてしまうかなっていうことで今
1:19:47	B S Mのコードリールの整備ですね、これでかなりそのコードリールが線量が高くて、もともとこれを除染セルで解体しようとして期間短縮を図ろうとしたんですけどちょっと線量が高いとやっぱりその解体場で遠隔でしなくちゃいけない可能性も出てきまして今ちょっとそこの判断

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:05	バーを確認してどのようにやっていくかってところを検討しております。それが解体場でやらなくちゃいけなくなると、ちょっと少しの解体に今ここで想定してるもの以外の解体が出てくると、ちょっと解体期間が延びる可能性があるかなと今そこら辺の工程は、ちょっと物を見ながら確認してる状況でございますはい、わかりました。
1:20:38	よろしいでしょうか。
1:20:47	東条。よろしければ引き続き、工程洗浄の指針。
1:20:55	ですから、
1:20:57	資料としては、補足2ということで、直近のなんていうのちょっと整理した紙を用意してるんですが、ちょっともし時間がほぼかなりあれですので、
1:21:09	これは例えば十分に回ささせていただいてええと工程洗浄の進捗状況報告に移らせていただくか、まだ少しはまでは大丈夫です。
1:21:24	項目の新しいイメージです。
1:21:31	お願いできますか。はい。はい。はい。それでは58ページの補足の資料、簡単にご説明させていただきます。こちらの資料は
1:21:42	特に最近、監視チーム会合等で論点になっている、
1:21:47	あと
1:21:49	今年度にかけて廃止措置計画の変更申請を考えているような項目についてまとめたものでございます。(1)から(7)までございましてはい。
1:21:59	(1)から(3)、こちらは監視チーム会合でのコメントール指摘事項への対応ということでまず(1)ガラス固化処理ということでこちら先ほど森川の方から説明ありました通り、
1:22:11	現在合同を試験中の3号余裕を使って、不具合の原因究明と対策の有効性を報告していくといったことをし、
1:22:22	考えてございます。(2)こちら先ほど議論になりましたNDFの実証プラント規模試験計画ということで第59回第70回監視部会後で議論いただきまして、
1:22:36	三つ目のポツにございますように、気象プラントを希望試験設備の設置が、の計画が折れており、工程遅延繰り返さないように、今後系統、計画を検討して、監視員に報告することとさせていただきます。
1:22:52	(3)、こちらのHowDFその他の施設の火災防護対策現場確認、プラントウォークダウン状況ということで、
1:23:01	ちょっと経営的には

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:04	はTVFの火災防護対策設備の設置に組み合わせて性能維持施設への登録でその他施設の既設の
1:23:14	消火設備等も登録したものの、候補、東海再処理施設の廃止が長期間にわたると、定例廃液と一緒に求める長期間かかるということから一旦こちらの設備についても現場確認等を行った上で、
1:23:27	妥当性を示すということをしてございまして、こちらも大学10回監視チームにおいて、その結果すでにウォークダウン終わってますので近々報告するというようにございまして。
1:23:40	(4)、こちら工程洗浄でございます工程洗浄につきましても、今年度中に完了するというようになってございまして、これにあわせましてもとの廃止措置計画で計画しております。
1:23:55	はい。回収可能核燃料物質が最終設備本体加藤吉江を明らかにすると、というような資料を添付して申請を買々と、いうことを考えてございまして。
1:24:06	続きまして(5)の方、
1:24:07	こちらも工程洗浄関連を、先ほど話題になりました検討女性の計画につきまして、特に
1:24:16	工程洗浄完了によって再処理設備本体の設備ですね、分離精製工場ウラン施設、プルトニウム転換技術開発施設が本格的な廃止措置にこう進んでいくと。
1:24:28	あとはクリプトンガスの管理放出の管理をいたしておりますクリプトン回収開発施設は、回収技術開発施設についても本格的な廃止措置のことから、これ汚染効用施設と言われている施設の系統除染に移管する計画というものを、
1:24:46	年度末、工程洗浄の完了に合わせて行いたいと考えてございまして。その際にはですね、こちらも初回の廃止措置計画で示した通り、
1:24:58	廃止措置2期間中における放出放射エネルギーを、の環境影響について評価確認をした上で、放出管理目標値の見直しも併せて行いたいと考えてございまして。
1:25:12	(6)は、性能維持施設の再整備と更新ということで、当初、定めていた性能維持施設を現在も性能維持のために法案を続けてございまして、こちらも工程洗浄に合わせまして、再処理設備本体の状況が大きく異なるということから、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:32	そういった不要になった性能維持施設の解除を含めて、再整理していきたいと、いうことがございますまた現状の性能技術についていろいろな、
1:25:44	課題があるといったところをこれまでの監視チーム会合で報告してございましてこちらの方も記載の充実と再整理を行っていきたいと考えてございます。
1:25:55	最後ですが括弧、これ以外の工事に関する申請予定ということで、3件挙げさせていただいてございますが、
1:26:04	最初に安全性向上や通常の保全のために以下3件の工事を予定しているということでございましてこちらの方早ければ5月末には申請させていただきたいと考えてございます。
1:26:18	補足の資料は以上になります。
1:26:20	はいありがとうございます。規制庁側から確認等あればお願いします。
1:26:30	すいません規制庁のスゴウです。廃措置計画の変更で、(4) (5) (6) とかに書いてあるんですけども、
1:26:43	基本的には、その工程洗浄、ガー間を終わりそうな段階で、
1:26:51	ここに記載のある内容は、1度に認可申請がされるっていうようなこと。
1:27:01	を考えていらっしゃるか、教えてもらっていいですか。
1:27:06	営業所機構ナカバヤシです。はい。
1:27:10	基本的にはを合わせて行いたいと考えてございますがまだ、今後ちょっと工程洗浄等の調整、調整といいますか
1:27:21	検討の進捗ですそれ以外の進捗を合わせて後日、計画については改めて取って示したいと思います。
1:27:30	規制庁のスゴウですありがとうございます。工程洗浄の状況次第ということで承知しましたで、その時にちょっと一つ気になったのが(6)の
1:27:42	一番最後のなおで火災防護5の確認結果も含めるっていう話があるんですけども、
1:27:51	工程洗浄がいつぐらいに終わるかによるとは思うんですが、今カッ括弧3の監視チームでの、
1:28:02	指摘受けてのプラントをクダウンしましてっていう話があって、それを踏まえて何かHOWTVF以外で火災対策みたいのが、
1:28:13	何かこう、更新というか追加されるのかちょっとよくわかんないですけど、されるとしたときに、このなんなのでしょう
1:28:24	とは磯地区計画の認可の申請時期がこれだけ若干こう、こう

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:31	を襲うタイミングは遅いような気がするんですけども、これだけを何か前倒しでやるとかそういうことは考えていらっしゃるんですね。
1:28:42	編集機構ナカバヤシでございます (3) のその他の施設の火災対策のプラットフォームだにつきましては
1:28:50	一方、
1:28:51	もともとこれ性能維持施設既設の葛西氏設備を追加すると言ったところ です。
1:29:00	申請したところをこういった現場確認を経た上で浸水製造技術に改めて追加すべきだというお話ですので、補正を行いましてこちらのその他設備の瀬野石津の登録は板野。
1:29:15	取り下げてございますのでそれを改めて追加していく、もちろんプラントウォークダウンの結果、過不足等ありましたら、それに対しては、別途行って食う。
1:29:27	心づもりでございますがそういった意味で一旦取り下げた設備、性能維持施設の申請を改めて行いたいと、そういった時の性能維持施設のこの部分だけをとっていき申請をするのが良いのか。
1:29:42	それとも全部並行して進めているその際、清野市全体の再整理ですからそちらに合わせて計セットにした方がいいのかと。
1:29:51	いった観点で言えばセットにした方がやっぱり安いといえますか、そう考えてます。
1:29:57	規制庁のスゴウです説明ありがとうございましたわかりました。そういう意味では確かにおっしゃる通り、全体として性能維持施設を、
1:30:08	どういう考え方で、そのエントリーするかみたいなのをしっかりと整理した上で、そこにプラントをクダウンの結果も踏まえた火災防護対策も載せた方が、
1:30:22	おっしゃる通りわかりやすいかなと思います。はい。わかりました。それからちょっと別々なんですけれども、
1:30:30	衛藤はちょっとわかんなかったんで教えて欲しいんですが、(5) でクリプトン回収技術開発施設Ⅱについては今後本格的な廃止措置に進む。
1:30:41	ってなって、(7) の5月末申請予定の、
1:30:47	なんかの真ん中のやつに、このクリプトン回収技術開発施設の江藤足空気圧縮機の自動切換機能追加っていうのがあるんですけども、
1:30:58	これはこういった観点で何か追加するものなのか教えてもらっていいですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:05	編集希望をナカバヤシでございますクリプトン回収技術解説につきましてご存知のように放射性クリプトンガスを貯蔵しておりましたが昨年度そういったものを管理放出いたしまして、
1:31:16	放射性のガスの在庫量は0になったと言ったと思って今施設としての機能をはほぼを終えましたので今後廃止措置に向けて進んでいきたいと言う段階でございますが、
1:31:30	こちらの(7)に示しました空気圧縮機の自動切替企業の詳細について別途面談での説明を予定しているところですが、こちらは
1:31:39	一つは
1:31:43	武器や飛沫のを、現在手動で切り換えていてその手動の場、その指導の前に今、
1:31:53	空気圧縮機運転中の空気圧縮機が故障等で停止した場合のバックアップとして現在は窒素が吸うタンクというものがございまして、クリプトン場数の回収をするためにで、
1:32:05	オフがそう低温に冷却するときに落ちる窒素ガス液体窒素がございまして、それを圧縮空気の代わりに吹き込むというバックアップ装置があるんですけど、この
1:32:18	窒素をタンクそのものが屋外にありまして、津波漂流物のちょっと候補になってございましてそちらを進めたいと、安全対策を含めて進めたいと。
1:32:29	それを撤去した際にバックアップがなくなるので、現在主導で、大気系との圧縮機の切り換えを行っているところを自動化して速やかにバックアップが立ち上がるようにしたいと、そういった計画で立ててございませぬ。
1:32:46	はい。すいません。そうですね。うん。
1:32:50	はい。すいません。
1:32:51	詳細について後日また聞けばいいんですけど、大体概要はわかりましたありがとうございます。
1:33:00	すいませんクリプトンの管理放出っていつやったんでしたっけ。すいません。
1:33:13	Aはまだ残ってるんだっけ、思うのは、ちょっと元首藤ナカバヤシさん、ガスそのものはもう残ってないんですけど、昔はガスを最終的にどうするんだというので研究開発の一環でそれを金属固体の中に封じ込めたところ形態、
1:33:30	そちらはまだ保管しているところが幾つかある

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:35	そういう状況です。そうすわないです。だからあそこ以上切り替わってそっちの方でいるってことが、一応3年だから使えと。
1:33:48	この圧縮機は、関係の制御に使ってますのでまだ管理区域の解除までたどり着きませんので、環境を生かすために、ちょっとそれは生かさ、
1:33:59	1、 押されてないから、管理区域を解除するまで必要ということなんです。 はい。
1:34:04	環境を止めるまでは、環境、はい。ケイ素食う系ですとかその継続で環境制御する系統にそのアップルの努力減反というそういったものを使っていますので、
1:34:15	そのために維持するということ。
1:34:18	はい。
1:34:19	わかりました。わかりました。また次回、次回、
1:34:31	よろしいでしょうか。
1:34:34	それでは、
1:34:37	ガラスの状況もあります。
1:34:43	発見者からだけは先ほどの資料のところですいませんちょっと説明した通り、
1:34:49	これはありません。はい、ありがとうございます。それでは、工程洗浄、
1:34:57	はい。当会から備品聞くナカムラです。ご説明いたします。資料の方準備しておりませんが、鳥栖本部参事資料7の32ページ目に、工程洗浄の概要を示してございますのでこれを参考に説明したいと思えます。
1:35:13	中こちら工程洗浄でございますけれども、令和3年12月に廃止措置計画の変更再申請を行いまして、昨年5月11日に認可をいただいております。
1:35:25	その後、昨年6月から先ほどご説明あったように6月から9月にかけて、せん断粉末、①のオレンジ色の部分ですね、そちらの方の
1:35:36	改修が取り出しが終わりまして、現在の下の方にございます高放射線廃棄調査の方に送ってございます。
1:35:44	現在行っておりますプルトニウム濃度のくみ取りの溶液の取り出しにつきましては、3月22日より、ちょうどこの真ん中にございます、緑色のタンクの形をしたものを左があり、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:56	②ということで蒸発缶に経由しまして、下の方の赤いタンクに多く高放射性廃液町村を送っておりますけども、こちらの方を進めておまして、今回、計7回、この
1:36:08	白抜き蒸発缶からデイタンクのほうに送気いたしますそれを、明日にですね、この蒸発缶から最終的にこの②番の分高放射性廃液貯槽に、の損益の1回目を行う予定になっております。
1:36:23	現在このように、工程内の金で起こりました、低濃度ポリと輪戸井田作業を行いまして、その後は硝酸をこのタンクの中に供給して、希釈取出しを何回か繰り返しまして選定を行って、
1:36:36	残存するプルトニウムを取り出す予定になっております。一部工程洗浄の実績の損益でした。健全性確認できない箇所がありましたので、そちらについては新ジェットという損益装置を我々使うんですけどもそちらの、
1:36:51	蒸気飯野操作弁2のナイツによりまして、当初予定のこの赤いタンクが何個かあるんですけどもその高放射性廃液調査をねらったところ以外の越智放射性廃棄貯蔵にも意見が遅れるということがわかってございます。この
1:37:07	バルブですね、これ該当したバルブにつきましては、次回の損益が来月の月末に予定されておりますので、それまでに本規程に基づく交換を実施する予定にしております。
1:37:19	もうこの放射性廃棄と同じ調査になっております。同じ大きなタンクでございまして臨界等の安全所の問題は、
1:37:27	ありませんで、予定の添の損益につきましては、今週来週です。頭にかけて、摩擦を受けながら損益する内容になっております。こちらの影響を受けましては、
1:37:40	当初の計画、8月中旬を予定しておりますけども、それには影響ないような一、二日の遅れのような、
1:37:46	遅れが生じてございますけども、8月中旬までの予定には、提供しないと考えてございます。
1:37:54	また、
1:37:55	現在右上の方でございます黄色の部分ですね、ウラン濃縮だ小こちらのウラン粉末への
1:38:03	データ。
1:38:05	計上しまして取り出すということで、こちらの方の準備作業も並行していく。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:09	進めております。こちらの方は 12 月からのプランの取り出し作業に向けて、準備の点検整備の方、順調に実施しております。
1:38:20	低下パターンですけども、指定工程洗浄の状況については以上となります。
1:38:25	できれば工程洗浄の調査につきましては、今年度いっぱい、続けてる、続けていくということで、申請の内容、しました内容につきましては時間をいただければご説明したいと考えてございます。
1:38:37	説明の方にちょっとなります。
1:38:41	はい、ありがとうございます。規制庁カーから確認等あればお願いします。
1:38:51	普段よろしいですか。
1:38:53	来る。
1:38:54	済みですすいません 1 点だけ、今工程洗浄を進めていただいていると思うんですけどこれはもう計画通り順調に進んでるっていう理解でよろしかったですか。
1:39:06	はい。衛藤。
1:39:07	先ほど
1:39:09	32 ページ目にございます。前段にございますように、工程洗浄連絡を 5 年度中に合わせるということに考えておりますので、そちらの方に向けて今準備をする、順調に進めているところになります。はい、わかりました。
1:39:26	はいありがとうございますそれでスケジュール。
1:39:32	よろしいですかね。はい原子力機構ナカノ先生と最後に今後の面談スケジュールでございます。江藤。
1:39:39	先ほどちょっと紹介させていただきました設工認 4 件いくつか近々申請させていただきたい案件でございますので、そういったもの含めて、できれば、次週、19 日水に面談の方をせ、
1:39:55	形をお願いできればと考えております。あと合わせて当然の保全といえますか性能維持施設関係の考え方、そういったところも含めてもう少し議論させていただければと考えてございます。以上です。以上です来週は 10 時からということで一応押さえてます。
1:40:13	聞こえをお願いします。
1:40:16	また、こちらからルール、人が入ります。私は難しいですか。いや、どちらの方、いやいや、いやいや、今日、今日はなかったっていう、まあまあ。はい。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:31	申し訳ありません。お時間ある時。
1:40:36	同挨拶をさせていただければと思います。すみません、何度かお会いをさせていただいてますのでまた機会があればご挨拶させていただきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。
1:40:47	恐縮です。
1:40:48	ごめんなさい。先にそれ暑かったんです。いえ。
1:40:57	機構側から何かありますかその他、
1:41:04	規制庁側からもよろしいですかね。
1:41:10	特段なければ、面談の方は、これで終わりたいと思います。
1:41:15	本日はありがとうございました。ありがとうございました。ありがとうございました。どうもありがとうございました。失礼いたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。